

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4301101	授業科目名	洋画基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩と木炭で身の回りのものを描く(人工物と自然物) -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)画材(木炭・油彩)の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。									
(2)油彩では、基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)で制作。自ら色を作り出せるようになる。									
(3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。									
(4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。									
(5)空間とモチーフの関係を描く事で、量感や質感についての理解を深めることができる。									
授業の概要									
身の回りのものを描く。 私たちの身の回りにある、色々な「人工物」と「自然物」に目を向けてみる。この二つの境界はどこだろうか。モチーフとなる「もの」や「場所」を選び、それぞれの関係性、質の違いに向き合い、考えながら表現していく。 まず、木炭デッサンを行い、その後、油彩で制作する。写真や画像などを使用せず、自分自身の目で直接見て、感じて描く事で、対象と向き合う面白さや難しさを知る。									
しっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可)									
【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。									
【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)の効果についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。身の回りのものを描く。 私たちの身の回りにある、色々な「人工物」と「自然物」に目を向けてみる。この二つの境界はどこだろうか。モチーフとなる「もの」や「場所」を選び、それぞれの関係性、質の違いに向き合い、考えながら表現していく。 まず、木炭デッサンを行い、その後、油彩で制作する。写真や画像などを使用せず、自分自身の目で直接見て、感じて描く事で、対象と向き合う面白さや難しさを知る。									
しっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可)									
【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。									
【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)の効果についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

<p>授業計画</p> <p>■授業日程:2020 年 4 月 9 日(木)~5 月 28 日(木) ■教室:7 号館 7-33・34 実習室</p> <p>第 1 回 導入(カリキュラム・洋画材の説明、担当教員の紹介等) 第 2 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 モチーフを探し、エスキース 第 3 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサンの為のエスキース 第 4 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(1) 第 5 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(2) 第 6 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(仕上げ 1) 第 7 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 木炭デッサン(仕上げ 2) 第 8 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩制作の為のエスキース 第 9 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩(下描き 1) 第 10 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩(下描き 2) 第 11 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩 (1) 第 12 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩 (2) 第 13 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩(仕上げ 1) 第 14 回 「油彩と木炭で身の回りのものを描く」 油彩(仕上げ 2) 第 15 回 合評</p> <p>※授業内で制作に関連する DVD の鑑賞を予定</p>
<p>授業外学習の指示(予習・復習・課題等)</p> <p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 PC やスマートフォンは制作過程を記録するなど、あくまでも補助的に利用することは可能。(直接的なモチーフとしての画像使用は不可) 必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動を心がけてほしい。</p>
<p>評価方法・評価基準</p>
<p>履修条件・留意点及び受講生に対する要望</p>
<p>購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)</p> <p>特に指定しない。</p>
<p>参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)</p> <p>関連するビデオや DVD、書籍等を授業内で適時紹介する。</p>
<p>参考 WEB サイト(サイト名・URL)</p> <p>特になし。</p>

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4303101	授業科目名	洋画基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩と木炭で人を描く(身近な人・自分自身など) -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)画材(木炭・油彩)の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。									
(2)油彩では、基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)で制作。自ら色を作り出せるようになる。									
(3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。									
(4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。									
(5)空間とモチーフの関係を描く事で、量感や質感についての理解を深めることができる。									
授業の概要									
人(身体)を描く。 最も身近な「人」である自分自身や友人を描いても良いし、「手」や「足」など、身体を部分的に捉えても良い。自らを深く見つめ、今の自分について考える。あるいは、友人と向き合うときに感じる魅力や安心感を、自我を通して掘り下げてみる。いずれの場合も自らの視点を大切に表現すること。 まず、木炭デッサンをして場所や背景との関係を考える。その時に生じた疑問や課題に向き合いながら改めて油彩で制作する。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可) 【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。人(身体)を描く。 最も身近な「人」である自分自身や友人を描いても良いし、「手」や「足」など、身体を部分的に捉えても良い。自らを深く見つめ、今の自分について考える。あるいは、友人と向き合うときに感じる魅力や安心感を、自我を通して掘り下げてみる。いずれの場合も自らの視点を大切に表現すること。 まず、木炭デッサンをして場所や背景との関係を考える。その時に生じた疑問や課題に向き合いながら改めて油彩で制作する。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。木炭や油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可) 【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

授業計画

■授業日程:2020 年 5 月 29 日(金)~7 月 24 日(金)

■教室:7 号館 7-33・34 実習室

- 第 1 回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等)
 第 2 回 「油彩と木炭で人を描く」エスキース
 第 3 回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(1)
 第 4 回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(2)
 第 5 回 「油彩と木炭で人を描く」木炭デッサン(仕上げ)
 第 6 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩の為のエスキース(1)
 第 7 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩の為のエスキース(2)
 第 8 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(下描き 1)
 第 9 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(下描き 2)
 第 10 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(1)
 第 11 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(2)
 第 12 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(3)
 第 13 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(仕上げ 1)
 第 14 回 「油彩と木炭で人を描く」油彩(仕上げ 2)
 第 15 回 合評

※授業内で制作に関連する DVD の鑑賞を予定

授業外学習の指示(予習・復習・課題等)

単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。

美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。

PC やスマートフォンは制作過程を記録するなど、あくまでも補助的に利用することは可能。(直接的なモチーフとしての画像使用は不可)

必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動を心がけてほしい。

評価方法・評価基準

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)

特に指定なし。

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)

関連するビデオや DVD、書籍等を授業内で適時紹介する。

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

特になし。

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4305101	授業科目名	洋画基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩で人体(ヌード)を描く -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)油彩の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。									
(2)基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)で制作。自ら色を作り出せるようになる。									
(3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。									
(4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。									
(5)人体(ヌード)の質感、量感、動きを表現することができるようになる。									
授業の概要									
ヌードモデルを描く。 生身の身体の根源的な魅力とは何なのか。即物的な捉え方ではなく、生きている躍動を感じながらじっくりと見つめ、表現する。最初はクロッキーを充分に行い、描く力を高める(短時間ポーズやムービングで、骨格や筋肉、人体の構造についても把握していく)。その後、油彩で制作。油彩では基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)のいずれかを選択。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可)									
【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。									
【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。ヌードモデルを描く。 生身の身体の根源的な魅力とは何なのか。即物的な捉え方ではなく、生きている躍動を感じながらじっくりと見つめ、表現する。最初はクロッキーを充分に行い、描く力を高める(短時間ポーズやムービングで、骨格や筋肉、人体の構造についても把握していく)。その後、油彩で制作。油彩では基本の三原色(赤+黄+青)もしくはグリザイユ(黒+白)のいずれかを選択。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
サイズは 15 号程度、絵の具は三原色(赤+黄+青)を使用。それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。(グリザイユでも可)									
【三原色】赤+黄+青の、それぞれの色の特徴を理解し、混色することで、身体の質感、形、複雑な肌の色調について思い通りの色を自在に作り出す事を学ぶ。									
【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									
油彩特有のマチエール(素材によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体感する。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

<p>授業計画</p> <p>■授業日程:2020年10月1日(木)~11月26日(木) ■教室:7号館 7-33・34 実習室</p> <p>第1回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等) 第2回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等1) 第3回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等2) 第4回 「油彩で人体(ヌード)を描く」クロッキー(短時間複数ポーズ・ムービング等3) 第5回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作の為のクロッキー・エスキース(1) 第6回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩制作の為のクロッキー・エスキース(2) 第7回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(下描き1) 第8回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(下描き2) 第9回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(1) 第10回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(2) 第11回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(3) 第12回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(4) 第13回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(仕上げ1) 第14回 「油彩で人体(ヌード)を描く」油彩(仕上げ2) 第15回 合評</p> <p>※授業内で制作に関連するDVDの鑑賞を予定</p>
<p>授業外学習の指示(予習・復習・課題等)</p> <p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。</p>
<p>評価方法・評価基準</p>
<p>履修条件・留意点及び受講生に対する要望</p>
<p>購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)</p> <p>特に指定なし。</p>
<p>参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)</p> <p>関連するビデオやDVD、書籍等を授業内で適時紹介する。</p>
<p>参考WEBサイト(サイト名・URL)</p> <p>特になし。</p>

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4307101	授業科目名	洋画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	佐藤 健博	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
洋画の基礎を学ぶ - 油彩で心ひかれるものを描く -									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)油彩の基本的な扱いを学び、その特性と魅力にふれることができる。									
(2)油彩表現をおこなう中で、画面上での色調やマチエールを理解できる。									
(3)自身の目で対象を見ることの大切さが理解できる。									
(4)画面の構成や空間性について学ぶことができる。									
(5)モチーフを選ぶ中で自己への探求を深めることができる。									
授業の概要									
心ひかれるものを描く。 自分が一番描きたいものは何なのか、また、なぜ今描きたいのかを考え制作する。必ず「見て」描くこと。 各自がモチーフを準備して、セッティングする。物の配置や画面との関係について深く探求する。校内であれば、屋外での制作も可。光の変化や天候をより顕著に感じる中で、目の前の対象を表現することの奥深さに触れる。 洋画基礎 4 では、サイズを 30 号までとし、洋画基礎 1～3 とは異なり、比較的大きなサイズに挑戦する。モチーフの配置や構図など、十分にエスキースを行い、油彩で制作する。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
絵具は基本の三原色(赤+黄+青)に加え各自で持参した色を複数使用しても良い。油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体験する。(グリザイユでも可) 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。心ひかれるものを描く。 自分が一番描きたいものは何なのか、また、なぜ今描きたいのかを考え制作する。必ず「見て」描くこと。 各自がモチーフを準備して、セッティングする。物の配置や画面との関係について深く探求する。校内であれば、屋外での制作も可。光の変化や天候をより顕著に感じる中で、目の前の対象を表現することの奥深さに触れる。 洋画基礎 4 では、サイズを 30 号までとし、洋画基礎 1～3 とは異なり、比較的大きなサイズに挑戦する。モチーフの配置や構図など、十分にエスキースを行い、油彩で制作する。									
描く対象をしっかりと「見る」ことで、経験や記憶による思い込みや齟齬と向き合い、自身の好奇心を深めながら制作する。油絵の具の魅力に触れ、基本的な扱い方についても学ぶ。									
絵具は基本の三原色(赤+黄+青)に加え各自で持参した色を複数使用しても良い。油彩特有のマチエール(絵具によって作り出される筆跡やナイフ跡、その質感)についても理解し、油彩技法の魅力を体験する。(グリザイユでも可) 【グリザイユ】有彩色を省き、モノクロ表現に特化する事で目の前の色相を明度に置き換える力を身につける。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

<p>授業計画</p> <p>■授業日程:2020 年 11 月 27 日(金)~2020 年 1 月 22 日(金) ■教室:7 号館 7-33・34 実習室</p> <p>第 1 回 導入(カリキュラム・洋画材の説明。担当教員の紹介等) 第 2 回 「心ひかれるものを描く」モチーフを探す 第 3 回 「心ひかれるものを描く」モチーフの配置を考える 第 4 回 「心ひかれるものを描く」油彩制作の為のエスキース(1) 第 5 回 「心ひかれるものを描く」油彩制作の為のエスキース(2) 第 6 回 「心ひかれるものを描く」油彩(下描き 1) 第 7 回 「心ひかれるものを描く」油彩(下描き 2) 第 8 回 「心ひかれるものを描く」油彩(1) 第 9 回 「心ひかれるものを描く」油彩(2) 第 10 回 「心ひかれるものを描く」油彩(3) 第 11 回 「心ひかれるものを描く」油彩(4) 第 12 回 「心ひかれるものを描く」油彩(仕上げ 1) 第 13 回 「心ひかれるものを描く」油彩(仕上げ 2) 第 14 回 「心ひかれるものを描く」油彩(仕上げ 3) 第 15 回 合評</p> <p>※授業内で制作に関連する DVD の鑑賞を予定</p>
<p>授業外学習の指示(予習・復習・課題等)</p> <p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 美術館やギャラリー等で直接作品を鑑賞すること。沢山の作品を見る機会を作り、表現の幅広さ、多様性に触れてほしい。 PC やスマートフォンは制作過程を記録するなど、あくまでも補助的に利用することは可能。(直接的なモチーフとしての画像使用は不可) 必要な場合は授業時間外でも制作するなど、与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え積極性を持った行動をしてほしい。</p>
<p>評価方法・評価基準</p>
<p>履修条件・留意点及び受講生に対する要望</p>
<p>購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)</p> <p>特に指定しない。</p>
<p>参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)</p> <p>関連するビデオや DVD、書籍等を授業内で適時紹介する。</p>
<p>参考 WEB サイト(サイト名・URL)</p> <p>特になし。</p>

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4309101	授業科目名	日本画基礎 1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
日本画画材で描く草花									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)胡粉・水干絵具を膠で溶きおろして彩色を重ねるとい、最も基本的な技術を身につける。									
(2)植物そのものの美しさに注目し、じっくりと向き合い、観察できるようになる。									
(3)和紙の余白との関係を意識して描くことで、日本画表現と洋画表現の違いについて考えることができる。									
授業の概要									
まず水彩絵具や鉛筆にて植物を丁寧に写生し、構図を吟味しながら、日本画材料を用いた本紙制作に昇華させていく。本紙制作では、和紙の水張り、写生からの転写、墨での骨描きや隈取り、胡粉や水干絵具を膠で溶きおろしての彩色などの工程を一通り体験する。とくにシンプルな姿の植物をモチーフにすることで、その佇まいの美しさや、余白との関係を意識した表現を考える。まず水彩絵具や鉛筆にて植物を丁寧に写生し、構図を吟味しながら、日本画材料を用いた本紙制作に昇華させていく。本紙制作では、和紙の水張り、写生からの転写、墨での骨描きや隈取り、胡粉や水干絵具を膠で溶きおろしての彩色などの工程を一通り体験する。とくにシンプルな姿の植物をモチーフにすることで、その佇まいの美しさや、余白との関係を意識した表現を考える。									
授業計画									
■授業日程:2020 年 4 月 9 日(木)~5 月 28 日(木)									
■教室:5 号館 5A-21 実習室(仮)									
第 1 回 植物の写生 1、ドーサ引き									
第 2 回 植物の写生 2									
第 3 回 植物の写生 3、和紙の水張り									
第 4 回 植物の写生 4、構図構想									
第 5 回 植物の写生仕上げ									
第 6 回 植物の写生仕上げ、和紙への転写、墨での骨描き 1									
第 7 回 和紙への転写、墨での骨描き 2									
第 8 回 胡粉下地、水干絵具による下塗り									
第 9 回 水干絵具による彩色 1									
第 10 回 水干絵具による彩色 2									
第 11 回 水干絵具による彩色 3 (中間チェック)									
第 12 回 水干絵具による彩色 4									
第 13 回 水干絵具による彩色 5									
第 14 回 水干絵具による彩色 6 (仕上げ)									
第 15 回 講評、作品を木製パネルよりはがす									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。									
具体的には第 6 回前後までの時期に、草花をよく観察し、クロッキーや下絵への取り組みを積極的に行うこと。 漫然と草花の形態を追うのではなく、豊かな感受性のもと植物の成長の様々な局面を描き止め、下絵を作り上げる姿勢をもってほしい。積極的に予習復習に取り組み、最終的な構図をより意義深いものに成長させ、本紙制作に挑んでほしい。 第 6 回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組み、より綿密な制作姿勢をもつよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまわないよう、画材の特性を表現に活かすことができる余裕を持つことが望ましい。									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
適宜紹介。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特になし

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4311101	授業科目名	日本画基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	諏訪 智美	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
絹本に描く小さな生き物									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)文字や絵をかく支持体として紙が用いられることの多い昨今、より多くの素材に興味を持つことができる。なかでも絹本を扱うことを通して、その性質について考えることができる。 (2)写真や動画など、モチーフの情報を収集する手段が増えた現代において、実際に生きて動き回る対象を自分自身の目で観察し、表現できるようになる。 (3)生き物にじっくりと向き合うことを通して、自然の造形美を自身の目で発見することができる。									
授業の概要									
絹本を木枠に張り込み、ドーサ引きを施すという基本的な工程を体験する。そのうえで墨や水干絵具を用いて、絹本への描き心地を体感する。 モチーフには金魚などの小さな生き物を採用し、まず動きを素早く大掴みに捉えるクロッキーの体験をする。クロッキーを通して美しい姿を見つけ、下絵づくりにおいて洗練することを学び、絹本作品としての表現に昇華する。絹本を木枠に張り込み、ドーサ引きを施すという基本的な工程を体験する。そのうえで墨や水干絵具を用いて、絹本への描き心地を体感する。 モチーフには金魚などの小さな生き物を採用し、まず動きを素早く大掴みに捉えるクロッキーの体験をする。クロッキーを通して美しい姿を見つけ、下絵づくりにおいて洗練することを学び、絹本作品としての表現に昇華する。									
授業計画									
■授業日程:2020年5月29日(金)~7月24日(金) ■教室:5号館 5A-21 実習室(仮)									
第1回 モチーフセッティング、木枠への下準備(捨て糊)、クロッキー 1(モチーフに目を慣らす、クロッキーに慣れる) 第2回 クロッキー 2(モチーフの初歩的な捉え方を学ぶ)、絹の張り込み 第3回 クロッキー 3(モチーフの印象をより正確に掴む)、絹の張り込み・予備回 第4回 クロッキー 4(細部描写との関係を考える)、ドーサ引き・表面 第5回 取り入れたいポーズの吟味、構図の構想、ドーサ引き・裏面 第6回 下絵づくり 1 第7回 下絵づくり 2(中間チェック) 第8回 下絵づくり3 第9回 試作用絹本への試し描き 第10回 制作 1 第11回 制作 2 第12回 制作 3 第13回 制作 4 第14回 制作5・仕上げ 第15回 講評・モチーフ撤収									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。 具体的には第7回前後までの時期に、対象をよく観察し、クロッキーや下絵への取り組みを積極的に行うこと。 その際は漫然と形態を追うのではなく、豊かな感受性のもとモチーフの動きや個性、水中の印象など様々な局面を描きとめ、自分がどんな美しさを感じているのか掘り下げる姿勢をもって、下絵を作り上げてほしい。そうした積極的な予習復習の取り組みを通じて、最終的な構図を自分にとってより意味深いものに成長させ、絹本作品に挑んでほしい。 第9回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組むよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまうよう、画材の特性を表現につなげるための余裕をつくることが望ましい。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
適宜紹介。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特になし

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4313101	授業科目名	日本画基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	石田 育代	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
岩絵具で描く小さな自然物									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)対象とするモチーフの持つ独特の質感や風合いを、自身の五感を使って観察し、表現に繋げることができる。									
(2)岩絵具という、粒子感のある画材の使用を体験する。このことを通して絵肌の表情に関心を持ち、表現にどのように活用するかを考えることができる。									
(3)和紙の余白との関係を意識して描くことで、日本画表現と洋画表現の違いについて考えることができる。									
授業の概要									
独特の質感をもつ自然物(例:貝や石など)をモチーフに採用し、個体差のある風合いや質感を観察し、まず水彩絵具や鉛筆での写生に取り組む。これをもとに日本画画材を用いた本紙制作に昇華する。水干絵具の扱いを習得することを基盤にしつつ、仕上げに岩絵具を併用する体験をする。独特の質感をもつ自然物(例:貝や石など)をモチーフに採用し、個体差のある風合いや質感を観察し、まず水彩絵具や鉛筆での写生に取り組む。これをもとに日本画画材を用いた本紙制作に昇華する。水干絵具の扱いを習得することを基盤にしつつ、仕上げに岩絵具を併用する体験をする。									
授業計画									
■授業日程:2020年10月1日(木)~11月26日(木)									
■教室:5号館 5A-21 実習室(仮)									
第1回 モチーフセッティング、写生 1									
第2回 写生 2									
第3回 ドーサ引き(表)、写生 3									
第4回 ドーサ引き(裏)、写生 4									
第5回 写生 5、構図構想、試し描きパネル水張り、試作および本制作用の和紙の水張り									
第6回 写生 6、仕上げ、和紙への転写、墨での骨描き 1									
第7回 墨での骨描き 2									
第8回 胡粉下地、水干絵具による下塗り									
第9回 水干絵具による彩色 1									
第10回 水干絵具による彩色 2									
第11回 水干絵具による彩色 3									
第12回 岩絵具も交え、彩色する1(制作後半期目安)									
第13回 岩絵具も交え、彩色する2									
第14回 岩絵具も交え、彩色する3(仕上げ)									
第15回 講評、作品を木製パネルよりはがす									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。									
日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。									
具体的には第6回前後までの時期に、対象をよく観察し、下絵への取り組みを積極的に行うこと。									
漫然と形態を追うのではなく、豊かな感受性のもと下絵を作り上げる姿勢をもってほしい。モチーフに関連した対象の観察・写生など、予習復習に組み込み、最終的な表現がより意義深いものになるように挑んでほしい。									
第6回以降は、使い慣れない画材であることを考慮し、下準備や試し描きなどに積極的に取り組み、より綿密な制作姿勢をもつよう努めること。使用に慣れるだけで精一杯になってしまうよう、画材の特性を表現に活かすことができる余裕を持つことが望ましい。									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)

特になし

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)

適宜紹介。

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

特になし

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4315101	授業科目名	日本画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	諏訪 智美	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
箔を生かした落ち葉の風合い									
授業の目的・到達目標									
<p>授業の目的・到達目標</p> <p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <p>1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。</p> <p>2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。</p> <p>3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。</p>									
<p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <p>(1)落ち葉の写生を通して、小さな自然物の中の造形美を感じることができる。</p> <p>(2)基本的な箔の扱い方や技法、および水干絵具の使い方を身につける。</p> <p>(3)箔と絵具を併用する制作を通じて、絵具とは異なる素材を絵肌に取り入れたときの表情の変化に触れ、表現の幅を広げる。</p>									
授業の概要									
<p>落ち葉を写生し、模様や葉脈などがもたらす複雑な風合いから、造形上の面白さを発見する。 これをもとに作品制作に臨み、箔の様々な表情の発見に努めることとの相乗効果によって、味わい深い絵肌を探求する。</p> <p>具体的な流れとして、まず小サイズの実験制作によって基本的な箔の関連技法に触れ、その後に応用として F8 号の作品制作に臨む。</p> <p>(1)小サイズ実験制作 箔は薄く延ばされた金属であり、下地の凹凸をよく反映する。これを体感するため、まず凹凸をもたらす伝統的な技法「盛り上げ胡粉」を学び、実験的に凹凸によって葉脈を表現する下地制作を行う。次いでその上に箔押しする際、マスキング技法「面蓋」の習得を兼ねて、葉のシルエットに沿った意図的な形で押すことに挑戦する。</p> <p>(2)F8 号での応用作品制作 最終的に箔と水干絵具を併用して、F8 号での作品制作を行う。箔の扱い方に関して、表現の素材の一つとしてより柔軟に捉え、自らの感性によって新たな表情の発見に努める。 その際のモチーフやテーマについては、基本的には授業初期の落ち葉写生の応用という位置づけで、落ち葉を複数枚取り入れた画面構成を想定している。落ち葉を写生し、模様や葉脈などがもたらす複雑な風合いから、造形上の面白さを発見する。 これをもとに作品制作に臨み、箔の様々な表情の発見に努めることとの相乗効果によって、味わい深い絵肌を探求する。</p> <p>具体的な流れとして、まず小サイズの実験制作によって基本的な箔の関連技法に触れ、その後に応用として F8 号の作品制作に臨む。</p> <p>(1)小サイズ実験制作 箔は薄く延ばされた金属であり、下地の凹凸をよく反映する。これを体感するため、まず凹凸をもたらす伝統的な技法「盛り上げ胡粉」を学び、実験的に凹凸によって葉脈を表現する下地制作を行う。次いでその上に箔押しする際、マスキング技法「面蓋」の習得を兼ねて、葉のシルエットに沿った意図的な形で押すことに挑戦する。</p> <p>(2)F8 号での応用作品制作 最終的に箔と水干絵具を併用して、F8 号での作品制作を行う。箔の扱い方に関して、表現の素材の一つとしてより柔軟に捉え、自らの感性によって新たな表情の発見に努める。 その際のモチーフやテーマについては、基本的には授業初期の落ち葉写生の応用という位置づけで、落ち葉を複数枚取り入れた画面構成を想定している。</p>									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

<p>授業計画</p> <p>■授業日程:2020年11月27日(金)~2021年1月22日(金) ■教室:5号館 5A-21 実習室(仮)</p> <p>第1回 和紙へのドーサ引き・表面、落ち葉写生 1(様々な風合いを楽しみ、描きとめることに慣れる) 第2回 和紙へのドーサ引き・裏面、落ち葉写生 2(自分の惹かれるものを探して、積極的に描きとめる) 第3回 和紙へのドーサ引き(予備回)、落ち葉写生3(F8 作品構想を見越した内容に発展させ、彩色写生) 第4回 小・F8 号各パネルへの水張り、落ち葉写生4(以降は F8 作品の下絵として、より具体的に取り組む) 第5回 試作小パネル(盛り上げ胡粉、面蓋用の和紙カッティング)、落ち葉写生5 第6回 試作小パネル(盛り上げ胡粉完成、面蓋貼り付け)落ち葉写生6 第7回 試作小パネル(箔押し)、落ち葉写生7(下絵としての完成目安) 第8回 試作小パネル(面蓋はがし、補修・仕上げドーサ、ほか自発的な試しなど) 第9回 F8 号での作品制作 1 第10回 F8 号での作品制作 2 第11回 F8 号での作品制作 3 第12回 F8 号での作品制作 4 第13回 F8 号での作品制作 5 第14回 F8 号での作品制作 6・仕上げ 第15回 講評 作品を木製パネルよりはがす</p>
<p>授業外学習の指示(予習・復習・課題等)</p> <p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 日頃から関連するモチーフをよく観察し、描きとめること。授業の内容をよく把握し、下準備に努めること。</p> <p>具体的には第4回前後までの初期の段階で、落ち葉の収集、観察、写生を充分に行い、のちの作品制作に備えること。落ち葉の美しい風合いが感じられる時期を見逃さずに描きとめ、対象から感じ、理解したことを蓄積して行ってほしい。第5回以降は、モチーフの写生をどのように作品へと昇華させるかを考え、構想や試作に十分な時間をかけること。 ただし落ち葉写生については、漫然とただ数を描きためるのではなく、回を重ねるごとに「自分が落ち葉のどのような風合いに惹かれているのか」「それをより引き出す画面構成を見つけられるか」「そのために足りない写生があるのではないか」と常に還元しながら探求する姿勢をもってほしい。そのため、「落ち葉の写生」「作品構想と下絵」という各段階について、それぞれ第○回から取り組むものと切り離して考えるのではなく、線でつながる取り組みとして理解してほしい。</p>
<p>評価方法・評価基準</p>
<p>履修条件・留意点及び受講生に対する要望</p>
<p>購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)</p>
<p>特になし</p>
<p>参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)</p>
<p>適宜紹介。</p>
<p>参考 WEB サイト(サイト名・URL)</p>
<p>特になし</p>

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4317101	授業科目名	立体基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	外磯 秀紹	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
『土と鉄』の立体制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
— 専攻分野固有の学びの目標 —									
1) 新たな創造性を生み出すことができる。									
2) 立体構成する力を習得することができる。									
3) 粘土原型を永久素材(テラコッタ)に加工することができる。									
4) 金属の加工技術を習得することができる。									
授業の概要									
『粘土』(テラコッタ)と『鉄』を使って立体作品を作ります。4 作品。									
(1) 自分の『顔の制作』。視覚に頼らない触覚による自分の顔の制作。後日、電気窯でテラコッタ(素焼き)にして完成。									
(2) モデリング『首像の制作』。モデルを見て粘土で制作します。テラコッタにして完成。									
(3) 『好きな動物の制作』。粘土で自由に制作します。テラコッタにして完成。									
(4) 『蠟燭立ての制作』。機械工具を使って鉄材でロウソク立てを作ります。『粘土』(テラコッタ)と『鉄』を使って立体作品を作ります。4 作品。									
(1) 自分の『顔の制作』。視覚に頼らない触覚による自分の顔の制作。後日、電気窯でテラコッタ(素焼き)にして完成。									
(2) モデリング『首像の制作』。モデルを見て粘土で制作します。テラコッタにして完成。									
(3) 『好きな動物の制作』。粘土で自由に制作します。テラコッタにして完成。									
(4) 『蠟燭立ての制作』。機械工具を使って鉄材でロウソク立てを作ります。									
授業計画									
■ 授業日程: 2020 年 4 月 9 日(木)~5 月 28 日(木)									
■ 教室: 7 号館 ピロティ									
1 回目 導入、課題、日程等の説明。 制作 視覚に頼らない制作(90分)。テーマは「自分の顔」。後日テラコッタにして完成。									
2 回目 制作 粘土を使ってモデリング首像 1。スケッチ。									
3 回目 制作 粘土を使ってモデリング首像 2。									
4 回目 制作 粘土を使ってモデリング首像 3。窯でテラコッタ(素焼き)にして完成。									
5 回目 制作 好きな動物をつくる 1。粘土を使って制作。									
6 回目 制作 好きな動物をつくる 2。具象形、想像上の動物でも良い。									
7 回目 制作 好きな動物をつくる 3。									
8 回目 制作 好きな動物をつくる 4。									
9 回目 制作 好きな動物をつくる 5。作品は窯で焼成してテラコッタで完成。									
10 回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作 1。溶接機、機械工具の説明と練習。									
11 回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作 2。									
12 回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作 3。									
13 回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作 4。									
14 回目 制作 鉄材で蠟燭立ての制作 5。									
15 回目 合評 テラコッタの作品と鉄の作品の 4 点で行なう。									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 生物の形を調査したり観察しておくとい。スケッチ。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
特になし。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特になし。

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4319101	授業科目名	立体基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	吉野 央子	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
木材の特性を活かした彫刻の基礎を学ぶ 木彫作品を制作する									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1) 自らの考えやイメージ、表現する内容に対して、的確な素材を選ぶことができる。									
(2) 身近な素材といえる木、石などの素材特性を知り活かすことができる。									
(3) 自らの過去、記憶、経験、あるいは日常、社会から見出した興味、関心をもとにテーマやコンセプトを導きだし、表現へと結びつけることができる。									
(4) 作品をとおして、自身の考えを他者へと発信する意識を持つことができる。									
授業の概要									
立体基礎2では、彫刻の基礎ともいえる「素材を彫る」という作業で制作される木彫について考えます。日本は森林率が約 68%、国土の 2/3 が森林である地域環境から、太古から日常で多くの木材を活用してきました。使用している樹種も豊富で、「適材適所」の語源通り、その用途や機能によって使い分けてきた歴史があります。特に木造建築、美術工芸の分野では、材を厳選して使い分け優れた加工技術を培ってきました。この授業ではそのような歴史的背景と、木の素材特性と木彫作品の作品例を知り、制作方法、加工技術を駆使した作品制作を行います。立体基礎2では、彫刻の基礎ともいえる「素材を彫る」という作業で制作される木彫について考えます。日本は森林率が約 68%、国土の 2/3 が森林である地域環境から、太古から日常で多くの木材を活用してきました。使用している樹種も豊富で、「適材適所」の語源通り、その用途や機能によって使い分けてきた歴史があります。特に木造建築、美術工芸の分野では、材を厳選して使い分け優れた加工技術を培ってきました。この授業ではそのような歴史的背景と、木の素材特性と木彫作品の作品例を知り、制作方法、加工技術を駆使した作品制作を行います。									
授業計画									
第 1 回 授業ガイダンス									
第 2 回 作品制作 1(歴史的背景、作品例をしる)									
第 3 回 作品制作 2(作品の構想を練る)									
第 4 回 作品制作 3(作品のエスキースを作る)									
第 5 回 作品制作 4(素材について学ぶ)									
第 6 回 作品制作 5(素材を選ぶ・木取り)									
第 7 回 作品制作 6(作品を制作する・粗彫り)									
第 8 回 作品制作 7(制作道具の見立て、手入れの方法を学ぶ)									
第 9 回 作品制作 8(作品を制作する・中彫り)									
第 10 回 作品制作 9(中間チェック)									
第 11 回 作品制作 10(作品を制作する・仕上げ 1)									
第 12 回 作品制作 11(作品を制作する・仕上げ 2)									
第 13 回 作品制作 12(作品を制作する・細部制作)									
第 14 回 作品制作 13(彩色、仕上げ作業)									
第 15 回 作品制作 14(展示、合評会)									
(授業の進行状況により課題に取り組む期間変更あり)									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 この授業では、まず素材を探し出すことから行うため、予習として実制作に入る前に各自で素材の準備をすることが必要である。期日までに必ず作品の発表が出来るよう、各自課題制作、プレゼンテーションの準備を進めること。また日頃から美術館、ギャラリー等で展覧会を鑑賞し、様々な表現方法に触れておくこと。									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
日本彫刻の近代／東京国立近代美術館 三重県立美術館 宮城県美術館 監修 淡交社 ISBN 978-4-473-03430-4
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4321101	授業科目名	立体基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	並木 文音	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
シリコン型によるオリジナルからコピー(複製)を作る。									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)自らの考えやイメージ、表現する内容に対して的確な素材を選ぶことができる。									
(2)単純な形(片面)の型取りを行い、型の作製と素材の置き換え(石膏)、形の複製ができる。									
(3)自らの記憶、経験、あるいは日常、社会から見出した興味、関心をもとにテーマやコンセプトを導き出し、表現へと結びつけることができる。									
(4)作品をとおして、自身の考えを他者へと発信する意識を持つことができる。									
授業の概要									
粘土から作り出した形をはじめ、身近にある自然物や生活用品等の既製品から直接型を取り、シリコン型を作製する。シリコン型は、私たちの身のまわりのものでは、プラスチック製品等を制作する際に使用されているもので、オリジナルの形を別の素材へと置き換えるため、またオリジナルの形を量産していくための用途で用いる。そのシリコン型の作製方法と作製した型を使用し、あらゆる素材への置き換え、形の複製(コピー)、量産の方法を習得しながら、それを自分の表現にどう活用するのか、発想と構想を重要視し、考える作業も同時に行っていく。従って自らの経験や、日常と社会を観察する中で見出した興味、関心を表現へと繋げていくこと、ならびに自身の作品をもって他者へ向けて発信する意識を持つこと、他者へ伝える方法も考察していく。粘土から作り出した形をはじめ、身近にある自然物や生活用品等の既製品から直接型を取り、シリコン型を作製する。									
シリコン型は、私たちの身のまわりのものでは、プラスチック製品等を制作する際に使用されているもので、オリジナルの形を別の素材へと置き換えるため、またオリジナルの形を量産していくための用途で用いる。そのシリコン型の作製方法と作製した型を使用し、あらゆる素材への置き換え、形の複製(コピー)、量産の方法を習得しながら、それを自分の表現にどう活用するのか、発想と構想を重要視し、考える作業も同時に行っていく。従って自らの経験や、日常と社会を観察する中で見出した興味、関心を表現へと繋げていくこと、ならびに自身の作品をもって他者へ向けて発信する意識を持つこと、他者へ伝える方法も考察していく。									
授業計画									
第 1 回 授業ガイダンス/課題①「シリコン、石膏、アルギン酸、型の特性を知る」									
第 2 回 作品制作(作品の構想・実制作)									
第 3 回 作品制作(設置と展示)/合評会									
第 4 回 課題②(1)「物の形の引用(型の作製)」									
第 5 回 作品制作(原型を選ぶ・原型を探す・型の作製)」									
第 6 回 作品制作(石膏型、シリコン型、アルギン酸等、型の作製)									
第 7 回 作品制作(型の作製・素材の置き換え)									
第 8 回 課題②(2)「物の形の引用(素材の置き換えと複製)」									
第 9 回 作品制作(石膏、樹脂等への素材の置き換え)									
第 10 回 作品制作(素材の置き換え・型からの複製)									
第 11 回 作品制作(型からの複製・課題③の素材の作製)									
第 12 回 課題③「機能・用途の解放と造形」									
第 13 回 作品制作(作品の構想・素材を探す・素材を集める・実制作)									
第 14 回 作品制作(実制作・素材の加工と構成)									
第 15 回 作品制作(作品設置)/合評会 (授業の進行状況により課題に取り組む期間変更あり)									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。まず素材を探し、見つけ出すことから行うため、予習として実制作に入る前に各自で素材の準備をすることが必要である。期日までに必ず作品の発表ができるよう、各自課題制作、プレゼンテーションの準備を進めること。また日頃から美術館、ギャラリー等で展覧会を鑑賞し、様々な表現方法に触れておくこと。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
授業内で適宜紹介する。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4325101	授業科目名	陶芸基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	田中 大輝	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
回転する粘土を操作する 轆轤(ロクロ)技法の基礎を知る									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1 電動轆轤(ロクロ)による技法の基礎知識を理解する。									
2 電動轆轤(ロクロ)による技法の基礎的な技法を習得する。									
3 基礎知識・技法を応用して作品を作る。									
授業の概要									
陶芸の基礎技術の一つである轆轤(ロクロ)技法を学ぶ。 轆轤の回転運動と粘土の可塑性を利用する「水挽」成形では、直接手で粘土に力を加えることでダイナミックに変形する土の反応から感触を得て物理的な体験から理解を深めていく。 成形の仕上げ工程である「削り」は、道具を用いて乾燥してゆく粘土を適時に削る。土の状態を見分ける感覚と管理能力を養いながら削る方法を学ぶ。 成形した作品は素焼き後、施釉をおこない本焼成する。 一連の工程を経験し、素材の状態を知覚しながら段階的な複数の作業を通じて作品をつくりあげる能力を獲得する。陶芸の基礎技術の一つである轆轤(ロクロ)技法を学ぶ。 轆轤の回転運動と粘土の可塑性を利用する「水挽」成形では、直接手で粘土に力を加えることでダイナミックに変形する土の反応から感触を得て物理的な体験から理解を深めていく。 成形の仕上げ工程である「削り」は、道具を用いて乾燥してゆく粘土を適時に削る。土の状態を見分ける感覚と管理能力を養いながら削る方法を学ぶ。 成形した作品は素焼き後、施釉をおこない本焼成する。 一連の工程を経験し、素材の状態を知覚しながら段階的な複数の作業を通じて作品をつくりあげる能力を獲得する。									
授業計画									
第 1 回 課題説明・デモンストレーション									
第 2 回 土練り・水挽成形									
第 3 回 水挽成形・削り 1									
第 4 回 水挽成形・削り 2									
第 5 回 水挽成形・削り 3									
第 6 回 水挽成形・削り 4									
第 7 回 施釉・本焼成									
第 8 回 水挽成形・削り 5									
第 9 回 水挽成形・削り 6									
第 10 回 水挽成形・削り 7									
第 11 回 水挽成形・削り 8									
第 12 回 水挽成形・削り 9									
第 13 回 素焼き・施釉・本焼成 1									
第 14 回 素焼き・施釉・本焼成 2									
第 15 回 合評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 予習として、ロクロ技法で作られた作品を鑑賞し、他の技法との違いを見つけ、その良さを考える。 復習として、一日の実習を振り返り、良かった点、悪かった点を思い出し、整理することで経験値を確かな記憶とする。 習ったことの反復練習、課題作品の制作に向けて管理、準備を行うこと。									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
特になし
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4327101	授業科目名	陶芸基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	かのう たかお	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
土から生み出す器のカタチ てびねり技法を知る									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1 技法の基礎知識を理解できる。									
2 基礎的な技法を習得する。									
3 基礎知識・技法を応用して作品を作る。									
授業の概要									
陶芸の基礎技術の一つである手びねり技法を学ぶ。 縄文時代から存在する手びねり技法を知るための手がかりとして、基本的な方法から応用・発展的な方法までを段階的に経験する。 段階に即して設定された課題に沿って、粘土の可塑性と物理的反応を知り、技法の特性と発展性を感知することから、素材と技法そして表現の基本理解を深めていく。 課題の中盤に焼成を設けることにより、結果を踏まえた制作の再開が、再確認の機会となり経験を確かなものにする。陶芸の基礎技術の一つである手びねり技法を学ぶ。 縄文時代から存在する手びねり技法を知るための手がかりとして、基本的な方法から応用・発展的な方法までを段階的に経験する。 段階に即して設定された課題に沿って、粘土の可塑性と物理的反応を知り、技法の特性と発展性を感知することから、素材と技法そして表現の基本理解を深めていく。 課題の中盤に焼成を設けることにより、結果を踏まえた制作の再開が、再確認の機会となり経験を確かなものにする。									
授業計画									
第 1 回 課題説明・デモンストレーション									
第 2 回 手びねり基礎課題①									
第 3 回 手びねり基礎課題②									
第 4 回 手びねり基礎課題③									
第 5 回 手びねり基礎課題④									
第 6 回 手びねり基礎課題④									
第 7 回 素焼き									
第 8 回 施釉・本焼成									
第 9 回 手びねり基礎課題⑤									
第 10 回 手びねり基礎課題⑤									
第 11 回 手びねり基礎課題⑥									
第 12 回 手びねり基礎課題⑥									
第 13 回 施釉・本焼成①									
第 14 回 施釉・本焼成②									
第 15 回 合評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 予習として、手びねり技法で作られた作品を鑑賞し、他の技法との違いを見つけ、その良さを考える。 復習として、一日の実習を振りかえり、良かった点、悪かった点を思い出し、整理することで経験値を確かな記憶とする。									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特に指定しない
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
特になし
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4329101	授業科目名	陶芸基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	奥村 博美	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
型から作る陶芸とは？ 石膏型を用いた成形									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メテエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1 技法の基礎知識を理解できる。									
2 基礎的な技法を習得する。									
3 基礎知識・技法を応用して作品を作る。									
授業の概要									
量産を目的として開発された石膏型による成形技法を基礎から学ぶ。 自作の型を用いて量産制作を経験すると共に、一方で土の造形ならではの偶然性や即興性を含んだ実験的制作をおこなう。 実験的な試みを通して型制作による造形表現の幅広さを経験する。 焼成においては、多種の焼成方法を試みることで作品の佇まいが変わることを知り、陶芸が複合的要素で成立していることを理解する。 量産を目的として開発された石膏型による成形技法を基礎から学ぶ。 自作の型を用いて量産制作を経験すると共に、一方で土の造形ならではの偶然性や即興性を含んだ実験的制作をおこなう。 実験的な試みを通して型制作による造形表現の幅広さを経験する。 焼成においては、多種の焼成方法を試みることで作品の佇まいが変わることを知り、陶芸が複合的要素で成立していることを理解する。									
授業計画									
第 1 回 課題説明・型抜きデモンストレーションと説明									
第 2 回 型抜き 1									
第 3 回 型抜き 2									
第 4 回 型抜き 3									
第 5 回 原形制作 1									
第 6 回 原形制作 2									
第 7 回 型づくり・デモンストレーションと説明									
第 8 回 施釉									
第 9 回 型抜き 1									
第 10 回 型抜き 2									
第 11 回 型抜き 3									
第 12 回 型抜き 4									
第 13 回 型抜き 5・仕上げ									
第 14 回 施釉焼成									
第 15 回 合評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 ・予習として型成形で作られた作品を鑑賞し、他の技法との違いを見つけ、その良さを考える。 ・復習として、一日の実習を振りかえり、良かった点、悪かった点を思い出し、整理することで経験値を確かな記憶とする。 ・授業中に示された調査や構想を積極的に行うこと。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特に指定しない
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
特になし
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4331101	授業科目名	陶芸基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	すずき あきこ	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
器に描く 下絵付けと上絵付け									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1 技法の基礎知識を理解できる。									
2 基礎的な技法を習得する。									
3 基礎知識・技法を応用して作品を作る。									
授業の概要									
絵付けの基礎知識(絵付けにおいて必要な設備・用具、呉須・赤・無鉛絵具などの使用法)を理解する。 ろくろ線・伝統的紋様などを繰り返し練習する事によって基礎的な技法を習得する。 基礎知識・技法を応用して作品を作る。絵付けの基礎知識(絵付けにおいて必要な設備・用具、呉須・赤・無鉛絵具などの使用法)を理解する。 ろくろ線・伝統的紋様などを繰り返し練習する事によって基礎的な技法を習得する。 基礎知識・技法を応用して作品を作る。									
授業計画									
■授業日程:2020年11月27日(金)~1月22日(金)									
■教室:風光館 F-132 実習室									
授業初日・2020年11月27日(金)は休講となります。									
第1回 授業概要・紙上練習【引上の線・引下の線】									
第2回 紙上練習【小紋】 生地練習/下絵付け									
第3回 下絵付け概要・呉須の使用法・呉須の練習【ろくろ線】									
第4回 呉須の練習【引上の線・引下の線】									
第5回 呉須の練習【小紋】									
第6回 ダミの使用法・ダミの練習・課題作品制作									
第7回 課題作品制作									
第8回 課題作品制作・提出・外側釉掛け									
第9回 内側釉掛け・窯詰め 生地練習/上絵付け									
第10回 上絵付け概要・赤の使用法・赤の練習【ろくろ線】									
第11回 念紙・赤の練習【花】・赤ダミの使用法・赤ダミの練習									
第12回 黒の使用法・黒の練習【花】・無鉛絵具の使用法・無鉛絵具の練習									
第13回 課題作品制作									
第14回 課題作品制作・提出・窯詰め									
第15回 合評									
授業進行に合わせ適宜でプリント・実演などの説明を入れます。 課題作品は指定したデザインのものと自身で構想したデザインのものをそれぞれ提出してもらいます。									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 ・予習として型成形で作られた作品を鑑賞し、他の技法との違いを見つけ、その良さを考える。 ・復習として、一日の実習を振りかえり、良かった点、悪かった点を思い出し、整理することで経験値を確かな記憶とする。 ・習ったことの反復練習、課題作品の製作に向け準備を行うこと									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特に指定しない
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
適宜紹介します。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4333101	授業科目名	染織基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	竹内 優美	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
シルクスクリーン・浴衣地制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標— 1、シルクスクリーン捺染の基礎的技法について理解できる。 2、パターンデザインの発案から版下までの過程を修得できる。 3、版の造形性の理解と可能性を発見できる。 4、浴衣地 13m の内、一定 m 数以上仕上げ、シルクスクリーン捺染のリピート技術を習得できる。									
授業の概要									
様々な画材や描画の方法を経験しながら、そこから自然現象などを形にし、デザインに展開させる。 実習を通してシルクスクリーン捺染技法(一版一色刷り)により浴衣地を染める。 アイデア出しから制作の工程、完成までの全てを経験する。 併せて、パターンとリピートデザインの概念を理解する。様々な画材や描画の方法を経験しながら、そこから自然現象などを形にし、デザインに展開させる。 実習を通してシルクスクリーン捺染技法(一版一色刷り)により浴衣地を染める。 アイデア出しから制作の工程、完成までの全てを経験する。 併せて、パターンとリピートデザインの概念を理解する。									
授業計画									
■授業日程:2020 年 4 月 9 日(木)~5 月 28 日(木) ■教室:光彩館 K-202 実習室									
1.課題説明/ことばからの連想、フリードローイング(自由にイメージを描く) 2.フリードローイング(自由にイメージを描く) 3.シルクスクリーン技法の説明/道具と技術、制作工程の説明 4.パターンへの展開①(トレース説明) 5.パターンへの展開②(パターン説明)/製版準備(紗張り) 6.リピートデザインについての説明 7.図案完成/版下制作①(図案を元にオペクインクでトレース) 8.版下制作②(図案を元にオペクインクでトレース) 9.版下制作③(図案を元にオペクインクでトレース) 10.製版(焼付け製版、感光) 11.プリント①(色出し) 12.プリント② 13.プリント③ 14.プリント④ 15.講評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。授業内で配布する参考文献や各自で興味ある関連書籍を読み進めること。授業での指示を元に各自、課題を進め積極的に自習すること。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし。参考資料配布。
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
特になし。
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4335101	授業科目名	染織基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	大村 優里	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
型染めによる表現方法を学ぶ 一ものをつつむデザイナー									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1 「ものをつつむ」をテーマに、布本来がもつ 物や身を包む／まもるという機能から、包む対象物、場所、贈る相手などを設定し、そこから文様デザインを考え表現する。									
2 スケッチなどを基にした下図を型紙に彫り、型の重なりや反復させることによって生まれるデザイン性などを学ぶ。									
3 日本で独自に発展した染色技法の学習を通じ、染色史の背景を理解し、伝統的工芸技法への興味を深める。									
授業の概要									
型染という日本古来の伝統染色技法のひとつひとつの工程を体験し、その技法を習得していく。 イメージ、アイデアをスケッチし、できあがりを予想したエスキースをつくる。 エスキースに基づき、型紙に彫れるようデザインをつくる。 その際、布の持つ空間性、型による構成性など型染の表現方法の多様性を学び、個々の独自のアイデアを生かして制作していく。型染という日本古来の伝統染色技法のひとつひとつの工程を体験し、その技法を習得していく。 イメージ、アイデアをスケッチし、できあがりを予想したエスキースをつくる。 エスキースに基づき、型紙に彫れるようデザインをつくる。 その際、布の持つ空間性、型による構成性など型染の表現方法の多様性を学び、個々の独自のアイデアを生かして制作していく。									
授業計画									
■授業日程:2020年5月22日(金)~2020年7月10日(金)									
■教室:光彩館3階 K-202 実習室									
第1回…課題説明、型染め技法説明、歴史講義、モチーフ採集									
第2回…エスキース									
第3回…エスキースチェック、デザイン下図									
第4回…防染糊づくり、デザイン下図									
第5回…糊仕上げ、敷き糊、デザイン下図									
第6回…糊置きデモンストレーション、デザイン下図									
第7回…地入れデモンストレーション、染料づくり、下図チェック									
第8回…染色デモンストレーション、つりつけ、型紙トレース									
第9回…型彫り									
第10回…糊置き、地入れ準備									
第11回…地入れ、染色準備									
第12回…染色									
第13回…染色									
第14回…フィキサー定着、水元									
第15回…作品仕上げ、講評									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 授業内で配布する参考文献や各自で興味ある関連書籍を読み進めること。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)

特になし。

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)

参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4337101	授業科目名	染織基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	大住 由季	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
ウール(羊毛)の特性を生かした幅広い表現を持つフェルトメイキングを学ぶ。 フェルトは繊維の絵具・粘土・糊です。									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。 									
<p>－専攻分野固有の学びの目標－</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、スケッチからの観察を経て、魅力的な形を引き出すことができる。 2、フェルトメイキングの工程を理解し、実施することができる。 3、丁寧な作業で、フェルトの特徴を生かした作品に仕上げることができる。 									
授業の概要									
<p>テーマは「植物」</p> <p>植物のスケッチから魅力的な形を見つけ出し、フェルトで身体に装着する立体(ソフトスカルプチャー)・ウェアラブルジュエリーを制作します。</p> <p>頭にかぶるもの、肩にかけるもの、からだに巻きつけるもの、手にはめるものなど、フェルトで造形します。</p> <p>色とりどりに染められたウール(羊毛)を使い、「水フェルト」の技法により、最初は柔らかく細い繊維が丈夫な平面や立体に変化することから体験します。</p> <p>ウール原毛からフェルトを作る「水フェルト」の技法はウールの特質を生かした独特のもので、ノリや硬化剤を使うことなく繊維同士の絡まりで平面や立体を作ります。</p> <p>「水フェルト」はウール原毛に石鹼を混ぜた湯で湿らせた後に、時間をかけて摩擦・圧力を加えることでフェルトに変化させる技法です。</p> <p>絵具のように絵を描くこと、粘土のように形を作ること、糊のように布などの異素材と組み合わせることができます。</p> <p>平面・立体、プレフェルト、布フェルト、ニードルフェルト等の技法を合わせて学ぶことにより表現を幅を広げ、フェルト独自の可能性をサンプル制作を重ねて探しましょう。</p> <p>各技法は説明・デモンストレーションの後、各自サンプル制作を行います。</p> <p>授業の最初に行いますので、必ずメモをとり遅刻・欠席のないようにしてください。</p> <p>合評は身体に装着した状態で行います。テーマは「植物」</p> <p>植物のスケッチから魅力的な形を見つけ出し、フェルトで身体に装着する立体(ソフトスカルプチャー)・ウェアラブルジュエリーを制作します。</p> <p>頭にかぶるもの、肩にかけるもの、からだに巻きつけるもの、手にはめるものなど、フェルトで造形します。</p> <p>色とりどりに染められたウール(羊毛)を使い、「水フェルト」の技法により、最初は柔らかく細い繊維が丈夫な平面や立体に変化することから体験します。</p> <p>ウール原毛からフェルトを作る「水フェルト」の技法はウールの特質を生かした独特のもので、ノリや硬化剤を使うことなく繊維同士の絡まりで平面や立体を作ります。</p> <p>「水フェルト」はウール原毛に石鹼を混ぜた湯で湿らせた後に、時間をかけて摩擦・圧力を加えることでフェルトに変化させる技法です。</p> <p>絵具のように絵を描くこと、粘土のように形を作ること、糊のように布などの異素材と組み合わせることができます。</p> <p>平面・立体、プレフェルト、布フェルト、ニードルフェルト等の技法を合わせて学ぶことにより表現を幅を広げ、フェルト独自の可能性をサンプル制作を重ねて探しましょう。</p> <p>各技法は説明・デモンストレーションの後、各自サンプル制作を行います。</p> <p>授業の最初に行いますので、必ずメモをとり遅刻・欠席のないようにしてください。</p> <p>合評は身体に装着した状態で行います。</p>									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

授業計画 ■授業日程: 2020 年 10 月 1 日(木)~11 月 26 日(木) ■教室: 光彩館3階 K-201 演習室 第1回 課題説明 フェルトサンプル制作(プレフェルト) 第2回 スケッチ 第3回 フェルトサンプル制作(平面) アイデアチェック 第4回 フェルトサンプル制作(立体) 第5回 フェルトサンプル制作(布フェルト、ニードルフェルト) イメージドローイング発表 第6回 各自サンプル制作 1 第7回 各自サンプル制作 2 第8回 サンプル付きプレゼン 第9回~14回 実制作 第15回 合評
授業外学習の指示(予習・復習・課題等) 実習時間が限られているので、予習として植物の観察・スケッチを行うこと。 アイデア、イメージドローイングは自宅課題とする。
評価方法・評価基準
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く) 特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料) 「フェルトメイキング ウールマジック」ジョリー・ジョンソン 青幻舎
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4339101	授業科目名	染織基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	繁田 真樹子	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
日傘を染める —ろう染めの技法で布を染める—									
授業の目的・到達目標									
<p>「1 年次専攻基礎 (メチエ) 全体における学びの目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。 <hr/> <p>—専攻分野固有の学びの目標—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、スケッチからの観察を経て、魅力的な形を引き出すことができる。 2、ろう染めの工程を理解し、実施することができる。 3、丁寧な作業で、ろう染めの特徴を生かした作品に仕上げるることができる。 									
授業の概要									
<p>テーマは「〇〇記念日」「〇〇日和」 各自がテーマにふさわしいモチーフを選び日傘をキャンパスとしてデザインし、染めで表現をする。</p> <p>雨を凌ぐ傘、日差しから身体を守るための日傘。 パラソルは誰もが使用しているアイテムですが、色彩は様々。色々なデザインのものがあります。 この授業ではろう染めという技法を使い布を染め、日傘を制作します。テーマは「〇〇記念日」「〇〇日和」 各自がテーマにふさわしいモチーフを選び日傘をキャンパスとしてデザインし、染めで表現をする。</p> <p>雨を凌ぐ傘、日差しから身体を守るための日傘。 パラソルは誰もが使用しているアイテムですが、色彩は様々。色々なデザインのものがあります。 この授業ではろう染めという技法を使い布を染め、日傘を制作します。</p>									
授業計画									
<ol style="list-style-type: none"> 1)ろう染め体験・課題説明 2)ろう染め体験・歴史解説・スケッチチェック 3)ろう染め体験・アイデアスケッチ 4)アイデアスケッチ 5)原寸彩色 6)原寸彩色 7)原寸トレース 8)原寸トレース 9)染め 10)染め 11)染め 12)染め 13)脱ろう (溶剤を使用) 14)染料の定着・日傘仕上げ 15)講評 									
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)									
<p>単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 また、第 1 回目と 2 回目の間に自身の選んだモチーフに各自スケッチをしてくること。</p>									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
毎授業にこちらで参考資料は用意
参考 WEB サイト(サイト名・URL)

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4341101	授業科目名	版画基礎1			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	熊谷 誠、岸 雪絵	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
銅版画と紙造形									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1) 銅版画の特性を習得する									
(2) ニードルなどの専門的な道具の使い方や 腐食液の扱い方を学ぶ									
(3) 直刻法と腐蝕法の製版の違いや銅版画技法の印刷について修得する									
(4) 紙漉きの基本的な知識とプロセスを修得する									
授業の概要									
銅版画技法の2種類の製版方法である直刻法(直接法)と腐蝕法(間接法)について理解し、技法の習得をする。直刻法は針ように先端の尖ったニードルという描画道具を用い、ドライポイントという技法で制作する。腐蝕法では銅板を薬品によって凹凸をつくり、より幅広い表現方法を学ぶ。これら3つの技法の特性を踏まえた作品制作に取り組む。加えて、紙漉き技法を学ぶことで版画の支持体である紙素材についての認識、または紙自体が表現の素材となり得ることを考察する。銅版画技法の2種類の製版方法である直刻法(直接法)と腐蝕法(間接法)について理解し、技法の習得をする。直刻法は針ように先端の尖ったニードルという描画道具を用い、ドライポイントという技法で制作する。腐蝕法では銅板を薬品によって凹凸をつくり、より幅広い表現方法を学ぶ。これら3つの技法の特性を踏まえた作品制作に取り組む。加えて、紙漉き技法を学ぶことで版画の支持体である紙素材についての認識、または紙自体が表現の素材となり得ることを考察する。									
授業計画									
■授業日程:2019年4月11日(木)~6月6日(木)									
■教室:対峰館2階 T-208 実習室									
銅版画									
直方刻と腐蝕法の銅版画の基礎的な技法を習得し、製版から刷りまでの制作過程を通して銅版画を理解する									
第1回 ガイダンス、銅版画技法[ドライポイント]の製版方法説明と実習									
第2回 [ドライポイント]の製版、印刷①									
第3回 [ドライポイント]の印刷②									
第4回 [ドライポイント]の印刷③ 銅版画の歴史と作品紹介、紙の歴史と 素材やプロセスについて、また作品紹介									
第5回 紙すき実習①(用具、施設の説明、ピーティング、染色実習)									
第6回 紙すき実習②(楮による流し漉き)									
第7回 紙すき実習③(パルプによる溜め漉き)									
第8回 紙すき実習④(流し漉き・溜め漉き)									
第10回 [エッチング]技法の理解と実習①:腐蝕方の説明について、下絵作成									
第11回 [エッチング]技法の理解と実習②:製版									
第12回 [エッチング]技法の理解と実習③:製版、刷り									
第13回 [エッチング]技法の理解と実習④:製版、刷り									
第14回 [エッチング]技法の理解と実習⑤:刷り(自作の紙を使用した刷りも行う)									
第15回 合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。 また、様々なイメージに目を向け、各自の作品イメージにつながりそうな資料の収集や、エスキースをおこなう									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
授業内において様々な作家の作品や学生参考作品を随時紹介
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特に指定しない

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4343101	授業科目名	版画基礎2			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	芳木 麻里絵	授業区分		開講年度	2020 年度	開講学期	前期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル									
作品制作からグッズ展開まで 多様な表現のシルクスクリーン制作									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1) シルクスクリーンの原理を学ぶ									
(2) シルクスクリーンの製版と印刷を修得									
(3) 多様性のあるシルクスクリーン表現を学ぶ									
授業の概要									
シルクスクリーンで扱う道具や機械の使用方法的理解と、製版、印刷の技術について学び、技法習得を目指す。また、グリーティングカード作成や、T シャツなど布地へのプリントを体験し、グッズ展開の可能性を検討する。シルクスクリーン技法の多様な表現の可能性を模索する。シルクスクリーンで扱う道具や機械の使用方法的理解と、製版、印刷の技術について学び、技法習得を目指す。また、グリーティングカード作成や、T シャツなど布地へのプリントを体験し、グッズ展開の可能性を検討する。シルクスクリーン技法の多様な表現の可能性を模索する。									
授業計画									
■授業日程:2019 年 6 月 7 日(金)~7 月 26 日(金)									
■教室:対峰館 2 階 T-208 実習室									
【シルクスクリーン】									
第 1 回 概要説明、シルクスクリーンについて基本原理を解説、制作行程などの理解、課題説明									
第 2 回 [カッティング法による制作]①: カッティング法によるシルクスクリーン制作の説明、デザイン画制作									
第 3 回 [カッティング法による制作]②: 布など、紙以外の支持体に印刷する									
第 4 回 [カッティング法による制作]③: 各自制作									
第 5 回 [グリーティングカード制作]①: デザイン画制作、ポジ原稿製作の説明、製版のデモンストレーション									
第 6 回 [グリーティングカード制作]②: 印刷までのデモンストレーション									
第 7 回 [グリーティングカード制作]③: 各自制作									
第 8 回 [グリーティングカード制作]④: 各自制作									
第 9 回 [4 版 4 色程度の作品制作]①: 個別ミーティング、原画制作									
第 10 回 [4 版 4 色程度の作品制作]②: 個別ミーティング、原画制作									
第 11 回 [4 版 4 色程度の作品制作]③: ポジ原稿製作、製版、印刷									
第 12 回 [4 版 4 色程度の作品制作]④: ポジ原稿製作、製版、印刷									
第 13 回 [4 版 4 色程度の作品制作]⑤: ポジ原稿製作、製版、印刷									
第 14 回 [4 版 4 色程度の作品制作]⑥: 印刷、完成									
第 15 回 合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要であるので、作品制作の構想を練る為に、ドローイングやスケッチ進めたり、デザイン画の制作やポジ原稿制作などを行うこと。普段からシルクスクリーン作品やシルクスクリーン印刷物について考察しておくこと。また展覧会やギャラリーを鑑賞したり関連の作品集などを見る事でよりイメージを展開すること。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)									
特になし									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
授業内において様々な作家の作品を随時紹介
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特に指定しない

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4345101	授業科目名	版画基礎3			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限			
担当教員名	栗棟 美里		授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering				ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix				
サブタイトル										
写真とデジタルメディア / 写真の基礎と表現の多様性										
授業の目的・到達目標										
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」										
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。										
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。										
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。										
—専攻分野固有の学びの目標—										
(1) カメラの構造と操作方法の基礎を身につけ、制作に必要な機材・設備を正しく扱えるようになる										
(2) 表現におけるテーマと技法との関連性について考察する力を身につける										
(3) 専門技術・知識を深め、課題の中から自身のテーマを設定できるようになる										
(4) テーマ及び作品を自身の言葉によってプレゼンテーション出来るようになる										
授業の概要										
この授業ではデジタルカメラを使用したフォトブック制作及びプリント実習から、フィルムカメラを使用した暗室でのプリントワークまで、写真表現の多様性を知るとともにその基本的な技術を身につけます。また、アナログ・デジタル双方のカリキュラムを通して、表現の独自性につながる必要なテーマ設定の方法を学びます。この授業ではデジタルカメラを使用したフォトブック制作及びプリント実習から、フィルムカメラを使用した暗室でのプリントワークまで、写真表現の多様性を知るとともにその基本的な技術を身につけます。また、アナログ・デジタル双方のカリキュラムを通して、表現の独自性につながる必要なテーマ設定の方法を学びます。										
授業計画										
■授業日程:2020 年 10 月 1 日(木)~11 月 25 日(木)										
■教室:自在館 3 階 Z-301PCW										
第 1 回 ガイダンス、カメラの基本構造と撮影について。										
第 2 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力①…作家・フォトブック・大判プリントについての考察。Adobe Bridge, Photoshop の基本操作。										
第 3 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力②…Adobe Illustrator を使用した画像配置とデータ作成方法。										
第 4 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力③…撮影・フォトブックデータ制作。										
第 5 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力④…大判プリンター出力。撮影・フォトブックデータ制作。										
第 6 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力⑤…大判プリンター出力。撮影・フォトブックデータ制作。										
第 7 回 デジタルカメラ フォトブック・大判出力⑥…大判プリンター出力。撮影・フォトブックデータ制作。										
第 8 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム①…課題説明。フィルムカメラの構造と操作方法。										
第 9 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム②…暗室使用説明。フォトグラム実習。										
第 10 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム③…フォトグラム実習。										
第 11 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム④…コンタクトプリント実習。										
第 12 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム⑤…引き伸ばしプリント実習。										
第 13 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム⑥…引き伸ばしプリント実習。										
第 14 回 35mm フィルムカメラ・フォトグラム⑦…引き伸ばしプリント実習。										
第 15 回 合評会										
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)										
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。										
写真集を見ることは写真制作をすることにおいて重要です。各自で興味のある写真集等を読み進めること。										
評価方法・評価基準										
履修条件・留意点及び受講生に対する要望										

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
授業内において様々な作家の作品を随時紹介
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特に指定しない

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4347101	授業科目名	版画基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	岸 雪絵	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
イラストレーションからリトグラフへ									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」 1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。 2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。 3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
(1)感光性樹脂版の原理やプロセスを理解し修得する (2)平版の原理やプロセスを理解し修得する (3)イメージ画について考察する (4)「環境にやさしい版画」について知る									
授業の概要									
夢の中や物語性のある世界など、現実とは異なる世界観を描くイメージ画について知識を深め、作品制作に取り組む。そして化学薬品を使わない「環境にやさしい版画」であるポリマー凹版画(感光性樹脂版)と、ウォータレス・リトグラフの二つの版画技法を学ぶ。制作を通して、凹版と平版の原理を理解し、これらの技法習得することを目指す。夢の中や物語性のある世界など、現実とは異なる世界観を描くイメージ画について知識を深め、作品制作に取り組む。そして化学薬品を使わない「環境にやさしい版画」であるポリマー凹版画(感光性樹脂版)と、ウォータレス・リトグラフの二つの版画技法を学ぶ。制作を通して、凹版と平版の原理を理解し、これらの技法習得することを目指す。									
授業計画									
■授業日程:2019 年 11 月 29 日(金)~2020 年 1 月 31 日(金) ■教室:対峰館 2 階 T-208 実習室									
第 1 回 授業全体のガイダンス、イメージ表現の実習①									
「ウォータレス・リトグラフ」:多版多色の作品制作を行う									
第 2 回 ウォータレス・リトグラフの概略説明及び実習									
第 3 回 ウォータレス・リトグラフの下絵制作									
第 4 回 ウォータレス・リトグラフの製版①									
第 5 回 ウォータレス・リトグラフの製版②									
第 6 回 ウォータレス・リトグラフの製版③、印刷①									
第 7 回 ウォータレス・リトグラフの印刷②									
第 8 回 ウォータレス・リトグラフの印刷③									
「ポリマー凹版画」									
第 9 回 リトグラフの歴史と作品紹介、ポリマー凹版画の作品紹介など、コラージュ制作									
第 10 回 サーフェイス・ドローイングの説明と実習									
第 11 回 サーフェイス・ドローイングの制作									
第 12 回 ポリマー凹版画の概略説明、ポリマー凹版の製版									
第 13 回 ポリマー凹版の印刷①									
第 14 回 ポリマー凹版の印刷②									
第 15 回 合評会									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週 4 時間の授業外学習が必要である。 様々なイメージに目を向け、各自のイメージにつながりそうな資料を集めたり、エスキースなど行う。 またドローイングを前提にコラージュの展開を考える									
評価方法・評価基準									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

履修条件・留意点及び受講生に対する要望
購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)
特になし
参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)
授業内において様々な作家の作品や学生参考作品を随時紹介
参考 WEB サイト(サイト名・URL)
特に指定しない

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

科目ナンバリング コード	AFA4355101	授業科目名	映像基礎4			開講曜日・講時	木曜 3 限、木曜 4 限、金曜 3 限、 金曜 4 限		
担当教員名	伊奈 新祐	授業区分	週間授業	開講年度	2020 年度	開講学期	後期	授業形態 種別	実習
科目ナンバリングの説明 ページへのリンク	http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/numbering			ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク		http://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/class/matrix			
サブタイトル									
ショートムービーと実験映像入門									
授業の目的・到達目標									
「1 年次専攻基礎(メチエ)全体における学びの目標」									
1 専攻分野での造形表現に関する基礎的な知識・技能・特性を理解し、表現に必要な思考方法を身につける。									
2 他者の心に訴える事ができる造形力を備え、考えを表現できるようになる。									
3 自分の個性や適正を活かし、目標を持って他者と協働できるようになる。									
—専攻分野固有の学びの目標—									
1) デジタルビデオカメラや一眼レフカメラの動画機能を用いた撮影の基礎を習得する。									
2) Adobe Premiere Pro と After Effects による編集技法の基礎を習得する。									
3) ショートムービー制作における企画能力を身につける。									
4) 映像表現における実験とは何かを考える。									
* 基本的なデジタル映像制作ができる。									
授業の概要									
映像制作の一連の基本的作業及び基本的な技法(撮影→編集→メディアへ書き出しなど)の習得・確認。カメラワークの研究や、デジタル編集の技術を高める上で、自由な発想を展開し、オリジナルな映像表現を追求する。映像制作の一連の基本的作業及び基本的な技法(撮影→編集→メディアへ書き出しなど)の習得・確認。カメラワークの研究や、デジタル編集の技術を高める上で、自由な発想を展開し、オリジナルな映像表現を追求する。									
授業計画									
■授業日程:2020年11月27日(金)~2021年1月29日(金)									
■教室:自在館3階 Z-301 PC ルーム									
第1回 ガイダンス									
第2回 課題(1)の説明 :「絵画から映像へ」(有名な画家の絵をもとに映像化する)									
第3回 課題(1)のプランニング									
第4回 課題(1)の撮影1									
第5回 課題(1)の撮影2(Photoshop と After Effects を使用する)									
第6回 課題(1)の編集(After Effects と Premiere Pro を使用する)1									
第7回 課題(1)の編集(After Effects と Premiere Pro を使用する)2									
第8回 課題1の「合評会」									
第9回 課題(2)の説明 :「音を撮る」(audio-visual imaging / audio-vision)									
第10回 課題(2)のプランニング									
第11回 課題(2)の撮影・編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)1									
第12回 課題(2)の撮影・編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)2									
第13回 課題(2)の編集(「マルチ化」と「レイヤー化」を意識する)3									
第14回 課題2の合評会									
第15回 まとめ									
授業外学習の指示(予習・復習・課題等)									
単位制度の趣旨に則り、この授業では週4時間の授業外学習が必要である。									
制作にあたり、撮影場所がキャンパス外の場合は、授業時間外に撮影を行う必要がある。									
様々な上映会に参加したり、日常的なTVや映像作品鑑賞においても「制作者の視点」から見ることを意識する。									
評価方法・評価基準									
履修条件・留意点及び受講生に対する要望									

京都精華大学 2020 年度シラバス (2020/2/3 時点のデータです。ここに掲載されていないデータは 3/2 以降にウェブでご確認ください)

購入必須テキスト(授業内で配付するプリント類を除く)

適宜プリントを配付する。

参考文献・作品等(購入不要:より深く授業内容を理解するための有用資料)

「Adobe Premiere Pro 」と「After Effects」に関する解説書・参考書は、
適宜、授業内で紹介する。

参考 WEB サイト(サイト名・URL)